

## 経営のヒント133 経済を発展させるのは政府か企業か？

### シュムペーターの創造的破壊

「経済を発展させるのは政府か企業か？」

70年前にケインズとシュムペーターの間で論争があった。

シュムペーターは「経済が発展するのは、起業家が時代遅れになった古い製品やサービスを破壊して、新しい生産性の高い製品やサービスへ入れ替えるからだ」と説明した。

これがいわゆる「創造的破壊」である。

「政府が税金を使う権限を持てば、政治家と官僚が自分たちの都合の良いように政策を決めるようになる。巨額のカネの使い道を政治家と官僚が決める権限を持てば、票とカネの欲しい政治家と天下り先の欲しい官僚と、仕事の欲しい民間企業の癒着が生まれる。経済学者が政策に口をはさむようになれば、経済学者が傲慢になる」

「景気を上向かせることができるのは、政府の経済政策ではなく、新しい事業を起こそうとする起業家のエネルギーである。世の中には、『変えてはならないもの』と『変えなければならないもの』があり、時代遅れになって生産性の低くなった事業は変えなければならないものである。変えなければならないものは破壊して、時代に適した生産性の高い事業につくり変えなければならない。その新陳代謝の役割を果たす原動力は、創造的破壊を行う起業家である」

シュムペーターは、「新しい事業を起こそうとする起業家のエネルギーと行動が、社会を発展させ、経済を成長させる原動力だ」という独創的な理論を打ち立てたのである。

市場経済論は均衡を前提とするという欠陥がある。イノベーションどころか変化さえ扱えない。

1911年にシュムペーターが明らかにしたように、経済活動の現実には創造的破壊による動的な不均衡である。（『ネクスト・ソサエティ』ダイヤモンド社 205p）

#### <経営のヒント>

世界はアメリカ発の大不況の嵐に・・・株価暴落、資産デフレ、資源インフレ、ドル全面安  
我々日本でも、この影響をこれから2～3年間、もろに受けることになるう！

さて、その時、政治家や官僚の取る対策は、どうするのか？

いつも通りのバラマキ

いつも通りの無駄な公共事業

いつも通りの官僚の天下り先確保の民営化対策

シュムペーターが明らかにした「創造的破壊」・・・全く影も形もない！

起業家の育成は、いったいどこにいったのか？

政治家、官僚は自分の利益（票・カネ・利権）にしか、興味はないのか？

経済の発展・成長は起業家の育成！・・・しかし、社会の発展・成長が！

今こそ小さな政府にして、地方分権、規制緩和、そして民営化を進めるチャンスなんだが・・・

過去の常識を破壊することがスタートです。破壊した後に、新しい価値を創造できるのです。

企業内でも同じことが言えます！

あなたは、業界内の常識を疑っていますか？ 破壊する努力をしていますか？